

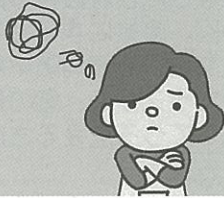
社協職員の一 日

～ボランティアセンター事業～

ボランティアセンターではボランティアに関する相談を受け、支援が必要な方と活動したい方をお繋ぎしています。相談者やボランティア、関係機関の方々と一緒に様々なニーズに取り組んでいます。今回は「視覚障がい者のためのマラソン伴走ボランティア」のコーディネートの様子をご紹介します。

1 相談

視覚障がいを抱えるAさん。障がいがあってもできることを増やしたい！と、来年開催のマラソン大会への出場を決意。ところが、視覚障がい者が出場するには伴走者が必要です。ヘルパーさんに走ってもらうわけにもいかず他に頼める人もいません。



伴走って？



障がい者ランナーの安全を確保して最適に走れるようコース誘導等を行います。一般的には輪にしたロープの一端をお互いに握り並走します。お互いの呼吸やペースを合わせるため練習が必要です。

2 ボランティアセンターの動き

協力者の募集をお手伝い！

ボランティアセンターだより、社協だより、恵庭市広報等に伴走ボランティア募集の記事を掲載しました。

伴走に関する情報収集

伴走って、どんなふうに行うの？Aさんも、職員も、これから関わって頂くボランティアさんも伴走に関わるのは初めてです。みんなが安心して練習に取り組めるよう、伴走の情報収集を行う他、指導をして下さる方を探しました。

関係機関との連携

障がい者総合相談支援センター（e-ふらっと）と連携し、Aさんのマラソン大会出場までの支援方法を一緒に検討しました。

3 協力者さんが集まりました！

こんな方々が集まりました！



Bさん（40代主婦）
以前は走っていたけれど体調を崩しお休みしていました。いつか再開しようと思っていたらAさんの記事を見つけ、これだ！と思いました。



Cさん（20代会社員）
会社の仲間とマラソン大会に出場した経験があります。仕事終わりや休みの日なら協力できます。



Dさん（50代主婦）
一緒に走ることはできないけれど、練習の見守りやエントリーのお手伝い等何かできることはありませんか？

伴走練習会を行いました

実際に活動始める前に、他市で伴走ボランティアをしている団体にご協力頂き練習会を行いました。実際に走りながら経験者の方にアドバイスを頂き、伴走のイメージを固めることができました。

Aさんの声

最初はあきらめ半分で相談に行きましたが、自分が心を開くことで沢山の方が協力してくれました。この機会がなければ関わることのなかった皆さんと繋がることができ嬉しく思っています。障がいがあるから…とあきらめなくてよかったです。

4 今後の動き

Aさんが協力してほしいことと、協力者さんのできることを合わせながら、皆さんと一緒に来年の大会出場を応援していきます。